
そんなに人生甘くない

塵芥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんなに人生甘くない

【Nコード】

N4459N

【作者名】

塵芥

【あらすじ】

神の力によるチート転生…そんなテンプレの裏側にある欲望渦巻く人々の群れ…

等と真面目ぶって見ましたがそんな重い物でもなかったり

（前書き）

《注意！！》

・駄文です。文法の間違い、漢字の間違い、不自然な会話で出来上がっている可能性大です

・少々特定の批判じみた文となってますが、全否定をしているわけではありません。むしろ好物な方なんです

・短編、とある通り続きません

・所謂自慰作品です

「ん……、んゝと何処？此処。」

目を覚ますとそこは真つ白な世界でした。意味解らん。

「まだゆ「起きましたね。」ヒィ!？」

いきなり声を掛けられかなり情けない声を出しちゃった。

「初めまして、私は…そうですね、人が言うところの神様みたいな存在です。簡単に言うと貴方は亡くなり、今は魂だけでこの場になります。」

「は…?え…」

え、死んだ？嘘だろ？え、何で納得いくわけないのに心の片隅ではああ、そうかとか思っちゃってるわけ？

ただ、目の前の存在が嘘を吐いてないと何故か思われる。神様パワーカー？

「…少し、質問をしていいですか？」

「ええ、どうぞ。貴方も突然のことで混乱してるでしょうし、お答えします。」

神様？て言う割に物腰が柔らかく、礼儀が正しく恐縮してしまう。もっとなんか「ミスって殺しちゃった、テヘ」みたいなのを想像してたけど。転生物の読みすぎか。

「そんな存在もありますが、私は嫌いでした。自分が超越者と驕るのも、平気でミスをするのも。」

と言いながら神様は顔を少ししかめた。

そうなんだ、十人十色で言うけど神様にも当てはまるんだなあ、て心読まれた？

「あ、すいません。こういった能力もあるんです。疑問は解消しておこうと思ひまして。」

「いえそんな、ところで質問何ですが、どうして自分は死んだんですか」

そう、自分は健康だったしトラックに轢かれた憶えもない。何時も通りに部屋で寝た筈だ。

「それは…先程想像したとおり他の者のミスで現実の貴方は心臓マヒで亡くなったのです。本当に、申し訳ない。」

…なんというテンプレ、呆れて怒りも湧かない。

「で、俺の魂がここに呼ばれて説明を受けているてことは、」

「はい、貴方には別の世界に転生してもらい第二の人生を送っていただきます。」

やっぱり、テンプレですね、分かります。

「ですが、全て貴方の想像通りでは無いんです。転生する世界は完全にランダムでそれこそ、貴方が想像する『海鳴市』や『幻想郷』、『学園都市』、『麻帆良』

と言った場所に転生する可能性もありますが、今まで生きてきた世界と何ら変わらない世界に転生する可能性もあります。

そして第二の人生を送るに当たって、前世の記憶は持ち越すことは出来ませんが、能力を付加させることは出来ません。」

マジ？チート、なんて贅沢は言わないが何かしらくれるのかと。

「それはミスする者による、力の悪用何です。おかしく思いませんか？元の世界にそのまま黄泉帰りをさせることは出来ない。なのにホイホイ他の人物の力や姿にして送れるなんて。学園最強の『超能力』英雄王の『財宝』や境界を越える程の『程度の能力』なんて最上級の力。錬鉄の騎士の剣製に本人の経験等々…。しかも本人と同等、それ以上に扱えるなんて。

そこまでの能力の付加が出来ながら、たかが元の世界に戻すことが出来ないなんて。」

確かに…

それらを扱える膨大な力等は渡せるくせに普通に現世には戻せないなんておかしすぎる。

どんならしい理由を用意しても能力付加して作品に転生させる理由にはならない

「奴らは楽しんでるんですよ。転生者の殆どはそういった神の玩具。その力が正しく使われるならまだいい。けれども大体が本来の持ち主の想いなど何も感じず己が欲望の為に行使する獣。拳げ句、

滅んだ世界もあります。」

そう、忌々しく吐き捨てた。

：確かに全部とは言わんがそんなのが多いよな。俺も力を貰っていたら多分、

いや間違いなく似たような道を進んでいただろうな。

少なからず、期待していたんだから。

「解っていただけでしたか？」

コクン、と頷く。

「では転生を開始します。大丈夫ですよ、貴方には貴方の力があるはずです。それを伸ばせば良い。時間は、たっぷりあるんですから。」

ニコリと微笑む神様。俺が女なら間違いなく惚れる、なんというニコポ。

本当にこの神様に会えて良かったと思う。テンプレ通りにろくでなしの神と騒いで転生していたら、ふわふわと同じ末路を迎えただろうから。

「では、良い旅路を。干渉は出来ませんが、最後まで見守らせていただきます。」

これじゃあ無様は晒せないな
そろそろ意識が飛んで

（後書き）

書いてしまった：書きたくなった理由を少々

- ・ 転生物の神様で不愉快な位無責任でいい加減じゃないか？ なら礼儀正しい神様を書いてみよう！
- ・ 神様ミスしすぎじゃね？ 理由をつけてみた
- ・ オリ主でチート求めすぎじゃね？ なら何も無しで逝って貰おう！（誤字に在らず）

・ 荒井スミスさんの『偽物の贋作者』を見て、前から思っていたことを書いてみたいと思った。（同じく短編でオススメ出来ますよ！）

こんな感じで勢いのみで書いたものです

まあ転生物に限らずこれから書くことと思う方、その世界（作品）を滅ぼす（放棄）ことがないように……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4459n/>

そんなに人生甘くない

2010年10月9日15時39分発行